

検出された遺伝子組み換えトウモロコシ

「スターリンク」の問題点

熱に強く分解されにくい

市民グループ「回収を」

安全性が確認されていない米国の遺伝子組み換え(GM)トウモロコシ「スターリンク」が市販の食品から見つかった。これまで遺伝子組み換え作物は安全とされ、輸入されてきたが、今回は政府が米国内に輸出中止を求めた。これまでは異なる対応を見ている。何が問題なのか。【小島 正美】

10月下旬、市民団体「遺伝子組み換え食品いらないキャンペーン」の調査で、ケーキ材料のコーンミールから「スターリンク」が検出された。すでに日本では大豆、トウモロコシなど計28品目のGM作物が、厚生省によって認可され、輸入されている。同様に農水省も計28品目のGM作物を飼料として認めてきた。とてつが「スターリンクはどちらの

殺すたんぱく質をもっている。ほかにも殺虫性たんぱく質をもつGM作物はあるが、今回問題になったのは「スターリンク」の殺虫性たんぱく質は熱に強く、消化されにくい性質をもつため、人にアレルギーを引き起こす可能性が指摘されているからだ。

このため、米政府は家畜飼料には認可したものでない。側面から新たなデータの提出を求めたが、会社側からはまだ新たな試験結果は届いていない。

今年10月20日、厚生省は検査で「スターリンク」の食品に混入を知ったが、輸入業者

の、食品への使用は認めず、10月には栽培の許可を取り消した。

◆今回の2度目 GM作物が作られたのは、農水省の調査(され、今回の2度目の調査)された。同キャンペーンから検出(同キャンペーン調査)され、今回の2度目の調査)された。それだけに危機感を募らせる同キャンペーン代表の天笠啓祐さんは「政府はGM作物は安全で動物実験は不要と言ってきたが、長期の影響を見る実験はやはり必要」と指摘する。

また市民グループ「食政策センター・ビジョン21」を主宰する安田節子さんも「日本政府は米国内にあってスターリンク関連製品の回収措置を取るべきだ」と

安全性については、厚生省と農水省が①たんぱく質のAMIN酸組成がアレルギーを起すたんぱく質と似ているか②熱で分解するか③酸やアルカリで容易に分解するか④分子量が小さいか⑤などを審査し、「問題ない」として認可してきた。しかし、スターリンクは「熱に強い」「分解されにくい」ため、両省の判断に新たな事実確認を行う必要がある。市民団体は独自の検査結果を公表した。安全性の審査が法的に義務化される来年4月から、未承認のGM作物は法的に輸入禁止となる。

話し、公的機関での安全性試験の必要を訴える。これに対し、厚生省食品保衛課は「スターリンクは他の組み換え作物に比べ、分解に時間がかかることは分かっていたが、アレルギーを引き起こすことが確認されなければいけない。現状では回収命令を出す法律がなく、製品の販売自粛を指導している」と話している。

◆事件の経過◇ 厚生省は1997年12月、スターリンクの認可申請を受けて審査していた。昨年6月、「アレルギー性がないといえるだけのデータが不足している」と会社

側面から新たなデータの提出を求めたが、会社側からはまだ新たな試験結果は届いていない。

今年10月20日、厚生省は検査で「スターリンク」の食品に混入を知ったが、輸入業者